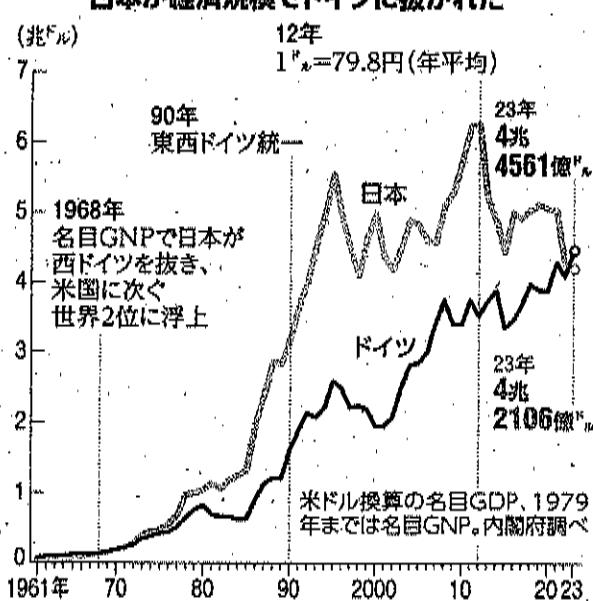


# 日本GDP 4位に転落

## 昨年円安響き、ドイツ下回る

2023年の国内総生産(GDP)は、物価の影響をあぐめた名目GDPが前年より5・7%増え、591・4兆円だった。米ドルに換算すると1・1%減の4・2兆ドルで、ドイツ(4・4兆ドル)に抜かれて世界4位に転落した。1968年に西ドイツ(当時)を追い越して以来、55年ぶりに日独が逆転した。▼2面=技術力で後れ、7面=ドイツ「稼ぐ力」、11面=耕論



GDP (季節調整値)  
23年10~12月期の実質GDP (季節調整値)  
は、前期(7~9月期)より0・1%減った。この状態が1年続いた場合の年率換算で0・4%減り、2四半期連続のマイナス成長だった。内需の2本柱である個人消費と

設備投資がともに弱く、成長の足を引っ張った。個人消費は前期より0・2%減り、3四半期連続でマイナスだった。暖冬で冬物衣料が伸びず、外食も振るわなかつた。設備投資も3四半期連続のマイナスで、前期よ

り0・1%減った。企業の設備投資に対する意欲は強いものの、物価高に人手不足が重なり、計画通りに進んでいない。

訪日客の消費などが好調で、それを含んだ輸出は2・6%伸びた。

内閣府が15日発表した。コロナ禍からの回復で消費や輸出が伸び、物価もあって日本の名目GDPは過去最高になつた。物価の影響をのぞいた実質GDPも1・9%増え、とともに3年連続のプラス成長になつた。

名目GDPでドイツに

抜かれたのは、円安の効果が大きい。23年の平均為替レートは1㌦=140・5円で、前年の平均より0円ほど円安になつた。また、ドイツは日本よりも物価高が激しく、それに伴つて23年の名目成長率が6・3%だったことも影響した。

ただ、より深刻なのは

内閣府によると、「世界の名目GDPにおける日本の割合は1995年の

17・8%をピークに22年は4・2%まで低下。10

年には、米国に次ぐ世界

2位の座を中国に譲して

いた。

## マイナス成長2四半期連続

内閣府が15日発表した。コロナ禍からの回復で消費や輸出が伸び、物価もあって日本の名目GDPは過去最高になつた。物価の影響をのぞいた実質GDPも1・9%増え、とともに3年連続のプラス成長になつた。

名目GDPでドイツに抜かれたのは、円安の効果が大きい。23年の平均為替レートは1㌦=140・5円で、前年の平均より0円ほど円安になつた。また、ドイツは日本よりも物価高が激しく、それに伴つて23年の名目成長率が6・3%だったことも影響した。

ただ、より深刻なのは内閣府によると、「世界の名目GDPにおける日本の割合は1995年の17・8%をピークに22年は4・2%まで低下。10年には、米国に次ぐ世界2位の座を中国に譲していた。

内閣府によると、「世界の名目GDPにおける日本の割合は1995年の17・8%をピークに22年は4・2%まで低下。10年には、米国に次ぐ世界2位の座を中国に譲していた。

内閣府によると、「世界の名目GDPにおける日本の割合は1995年の17・8%をピークに22年は4・2%まで低下。10

年には、米国に次ぐ世界

2位の座を中国に譲して

いた。

内閣府によると、「世界の名目GDPにおける日本の割合は1995年の17・8%をピークに22年は4・2%まで低下。10

年には、米国に次ぐ世界

2位の座を中国に譲して

いた。